

めあて

学習したことを生かし、京都の街並みに調和しながらも、人が行きたくなる建物を考えよう

発展課題3



京都新聞 2022.2.3 掲載 (実際の再開発計画)
https://www.kyoto-np.co.jp/articles/gallery/724490?img=150m/img_215a882d591783e8038d4845dd5a5856430881.jpg

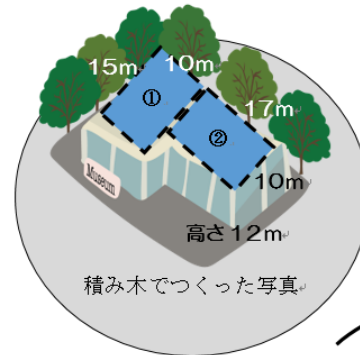
コンセプト

人が多く集まる京都駅。だからこそ、だれもが心休まる場所であってほしい。夏は木かげで一休み。心が疲れたときに、ふらっと美術にふれて明日の活力に。人々の心をいやす自然と調和する美術館。

建物の大きさ

高さ・・・12m
 底面積・・・320㎡ (①と②)
 ①・・・15×10=150
 ②・・・10×17=170
 150+170=320
 体積・・・3840㎡
 320×12=3840

緑とともにある美術館



場所

京都駅の東側。川も横に流れており、より自然と一体となった建物になる。

おすすめポイント

建物の柱をすべて円柱したところ。ヨーロッパの建築物のようにし、外国の方にも親近感をもってもらえるようにしている。内装は和で統一し、京都らしさを全面的にアピールする。



京都市は、下の目的に向けて、京都駅周辺の再開発を進めています。

＜目的＞京都駅周辺のまちづくりに「文化芸術」という新たな視点を取り入れることにより、「若者」を中心とした新たな人の流れを生み出し、本エリアの課題でもある人口減少や高齢化の進展に歯止めを掛けるとともに、本エリアと京都駅周辺地域の活性化の動きが連動することで、京都全体の活性化につなげる。

もしあなたが京都駅周辺を再開発する担当者であった場合、どのような施設、建物等を造りますか。

①何を目的とした建物にするか考える (美術館、バス停など)

②どのようなデザインにするか考える

(積み木や身の回りにあるものを使って組み立てる)

③建設条件に合っているか建築面積や建築体積を求める



＜建築条件＞

- ・高さは20m以内 (積み木の場合1cm→1mとして考える)
- ・建物の建築面積は2000㎡以内 (積み木の場合1cm²→1m²)
- ・建物の全体積は40000m³以内 (積み木の場合1cm³→1m³)

学習の手順と提出条件

- ①建築する施設、建物を考える（京都市が掲げる目標に合ったもの）
- ②自分の持ち物やつみ木を使って施設や建物の模型をつくる（提出物）
- ③模型の長さを測り、＜建築条件＞に合っているか面積や体積など計算する（提出物）
（学習した体積の求め方を生かす）
- ④施設、建物のコンセプトを考えかく（提出物）

提出

- ・施設、建物の写真
- ・＜建築条件＞に合っているということがわかる“式”と“説明文”
- ・なぜその施設、建物にしたのか、どんな思いを込めてそのデザインにしたのかを説明した文

※提出①の3点はつなげて提出するか、自分なりにわかりやすくまとめて提出すること